

平成30年度 学 事 報 告 書

1. 概 要

2018年度は入学者（2018年5月1日現在）343名（大学編入科223名、リクルートコース120名）前年度比75名増、在籍者598名（大学編入科372名、リクルートコース226名）前年度比82名増で新年度をスタートさせた。

教科指導に関しては、前年度大学編入科に設置した特進クラスの人数を増員した。増員した結果、特進クラスの受験指導に影響が出ないよう放課後の特別補講を実施、次年度、編入試験を受験する際、前年度同様に難関校受験を目標にできる体制を整えた。また、事務・経理科では前年度に引き続き、ERPの資格試験で高い実績を上げることができた。退学者数は1年次の退学者が前年度より増加し、学校全体で約7%の退学率となった。

近畿大学の単位取得等について、商経クラスは卒業率94%と前年度比較3ポイント減となった。法学クラスの62単位終了率は96%であり、両クラス94.6%の実績であった。大学編入実績は前年度より1ポイント増加し、合格率100%を達成した。しかし、国公立大学の延べ合格者数は85名であり、目標の100名を達成できなかった。要因としては、大学側が文部科学省の指導により入学定員を大幅に超える入学者の受け入れを取りやめ、定員の1.2倍程度に抑えた影響と考えられる。

学生の就職については、例年に引き続き売り手市場であった。学生の就職活動は順調に推移し、早期の内定を獲得した学生が多かった。また、多数の企業が校内企業説明会を実施した。早期内定獲得、求人数増加の要因としては、日本社会の若年層労働人口減少、選考基準の引き下げ等があった。企業求人数は、前年度増加したIT関連の企業に限らず、他の職種の新規求人も増加した。年度末現在で就職率は96%である。未決定者については卒業後も引き続き就職活動の支援を実施する。

学生の生活指導については、精神的に弱い学生が毎年増加しており、校内でのカウンセリングや担任の個別指導で対応した。出席ができない学生については、最終的に退学もしくは休学を案内する場合もあった。校内体育大会は、例年通り学生主体で運営、開催したが、積極的に運営に携わる学生は減少している。クリスマスイベントは、例年実施しているパーティ形式ではなく、キャナルシティ博多にて劇団四季による観劇会を実施し、学生アンケートにおいて概ね好評を得た。

2019年度入学者は350名（大学編入科210名、リクルートコース131名、大学併修リクルート科3年次転入者9名）前年度比7名の入学者増であった。当初の入学者目標数を達成することができた。大学編入科は前年度比入学者13名減となった。リクルートコースは入学者20名増となり、特に大学併修リクルート科は10名増の36名の入学者を確保し、初めて定員を超過した。

管理部門では、2016年度12月に産休のため休職した職員1名が2018年7月に退職した。前年度までに定年を迎えた職員は4名であり、いずれも再雇用となった。

付帯事業では、2016年度より開所した大濠チャイルドカレッジについて、今年度は24名の利用者と運営を開始し、年度末には22名となった。退会5名、入会3名であった。